

令和6年度 第1回
都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会
議事要旨

1. 日時

令和6年10月7日(月) 15:00~17:00

2. 出席者

<委員> 森本章倫座長、糸久正人委員 (WEB 参加)、大串葉子委員、金森亮委員、中村英夫委員、中村文彦委員 (WEB 参加)、藤原章正委員、三好庸隆委員

3. 議事

- ・ 都市空間における自動運転技術の活用に向けたポイント集(案)について

4. 議事概要

(事務局より説明を行ったところ、委員からの意見は以下のとおり)

- 自動運転技術が都市像の実現という目的を支えるということがぶれないように留意いただきたい。
- 将来的に自動運転のシェアリング等により駐車場が余ることが想定されるが、街の空間構成の中で駐車場を削減するというのは、他の用途、例えば公共空間の確保につながるので、良い機会である。
- 街中での駐停車については、自動運転車両は法令に遵守するはずであり、自動運転車両が悪影響を及ぼすことは無いと考えて良いのではないか。
- 当ポイント集を読む自治体にとって理想的な街とはどういうものなのか、ビジョンをもう少し配慮して記載できないか。その上で自動運転が活用できるかという話になると思うが、何もしなければ都市空間が広がってしまう中で、コンパクト+ネットワークの街やウォーカブルな街にしていくためにはどうしていきべきかが記載されていると良い。
- ポイント集では中心市街地のイメージが強く、ニュータウンや人口が減少している自治体の方から見ると、将来のことで、今勉強しなくても良いという印象を思われるのではないか。その辺りの書きぶりがバランスを取れているか再度チェックいただきたい。
- 自動運転をまちづくりに活用するとライフスタイルが変容し、現在抱えている多くの社会課題、例えば、地方の移動困難、買い物困難、防災監視の面などが、自動運転技術普及で解決できる可能性がある。そのようなポジティブなイメージをポイント集の冒頭で示しつつ、今後の街路や土地利用面について配慮して欲しい、と示すと、ポイント集を読んでみようという気をより一層高めるのではないか。

- オールド化しているニュータウンを有する小さな自治体の方が忙しい業務の中でも読めるように工夫してほしい。
- 将来、部分的に自動運転が導入される際に、「このような姿が想定される」という未来の絵を各取組の中で例示すると、自治体としても地域の事業者との連携方法を把握できる等、このポイント集を利用しやすくなるのではないか。
- 混在期に至る手前のことが多く記載されているので、その先の未来が見えるような記載になると良い。
- ポイント集で担い手や投資効果を参考事例として記載するのは検討が必要。また、ベネフィットとして計上しづらい QOL やウェルビーイング等はあまり記載されていないと思ったので、参考事例等で記載いただけると良い。
- 自動運転技術を導入する際に具体的に誰と調整すべきか、自治体の方は気になっている。色々な方が関係してモビリティサービスが提供されることが多くなっているので、想定される連携先が事例として掲載されると、自治体の方も動きやすいのではないか。
- 自動運転技術は都市部と都市郊外部の話といった誤解をされないよう、地方部の活用事例も入れた方が良い。都市部では難しく、地方部ではできるような自動運転の事例を1、2事例入れていただけると良い。
- （自動運転技術の導入等が進んでいる各地区では、）必ずしも自動運転技術を入れるというのが主目的で実施している訳ではなく、色々な背景がある中で自動運転バスを採用している。採用までの物語を記載していただきたい。
- 色々なモードがあるイメージだが、知見がバラバラに掲載されている。また、絵のデザイン統一がされておらず、分かりにくい。
- 海外事例がイメージしにくかった。国内事例を入れていただけると身近に感じる。
- バリアフリーだけではなく、より豊かな都市空間を作っていくというユニバーサルな空間づくりの話を推していただきたい。
- 今回のポイント集は、人中心の持続可能な空間形成を支援するための自動運転技術であるというコンセプトなのは間違いない。全体的に誤解されないよう記載されたい。
- 参考となるガイドラインや事例集を記載することは大変良いと考える。このポイント集に全てを書き込めるわけではないので、関連する事例等があるということをポイント集に記載いただきたい。
- 文章量は読める範囲内である程度絞り込んでいただく必要がある。また全体像を見るために概要版があると良い。概要版を英語版にする等、情報発信について今後検討いただきたい。

以上